

## 竹の内観世音



竹ノ内観世音堂

信達一統誌によれば「大悲閣、竹ノ内という所に安置す。三月十七日祭礼なり、詠歌に『布川や波おり来てし水上のいと澄渡るあや竹の内』云々」と記されています。

当勢至観世音は、当地の齋藤五左エ門が信夫郡山口村より移住のとき、文字摺観世音の御分霊としてまつたものです。

現存の御堂は、記録によると齋藤五左エ門の分家が七軒となった天明元丑年（一七八一）十月二十八日に起工し、天明三卯年（一七八三）十月二十八日に入仏式を行なったものです。

今次大戦直後までは、本堂の前に九メートルほどの石畳があり、その先に、二間に五間の楼門の形をした行屋がありました。昔は、部落の信者の人たちがお籠りなどをしていました。

境内には、青葉山、百万遍供養塔、庚申塔など数多くの石塔が立ち、また、二重墓制の墓碑も沢山建てられてあります。

観音堂で一般に竹の内観世音と呼ばれています。

御堂内には、四〇センチ角、高さ七〇センチの厨子があり、中には台座とも高さ三十センチ、寄木造りの観世音様が鎮座しています。